

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 塩谷 隆太

主査 教授 清水 宏
審査担当者 副査 教授 丸藤 哲
副査 教授 松居 喜郎
副査 教授 筒井 裕之

学 位 論 文 題 名

マウスリンパ節移植モデルにおける浮腫予防効果ならびに悪性黒色腫転移制御に関する研究

(Studies for prevention of lymphedematous change and suppression of melanoma metastasis in lymphnode transplantation mouse model)

学位審査において申請者は以下の内容について発表した。所属リンパ節郭清術施行後のリンパ節移植術が、合併症であるリンパ浮腫に対して予防効果を持つ事に関して動物モデルを用いて検討した。またリンパ節移植術が腫瘍細胞の局所・遠隔転移の様式に与える影響に関する研究も行った。マウス後肢リンパ浮腫モデルにおいてリンパ節移植術を行うことで、対照群と比較し有意に浮腫の程度が軽度となることを示した。また蛍光リンパ管造影を行うことで、移植リンパ節への強い集積や腹側皮下のリンパ側副路発達などのリンパ流改善に繋がる機序を示唆する所見を得た。転移様式に与える影響の研究では、原発巣のサイズ・肺転移の定量化による比較を行い、リンパ節移植術を施行することで腫瘍体積は減少し、肺転移は増加する傾向が見られたが有意差は得られなかった。リンパ節移植術がリンパ浮腫などの合併症の予防のみならず、局所・遠隔転移に与える影響、今後の研究方針、解決を要する問題点などについて論じた。

質疑応答についての概要は以下の如くであった。

副査の丸藤教授から、対照群の浮腫維持期間、リンパ節移植術による肺転移の増加傾向の原因に関して質問があった。副査の松居教授から、本研究のモデルで示された浮腫予防結果の臨床における意義、有茎皮弁移行術の意義に関して質問があった。副査の筒井教授から、対照群の蛍光リンパ管造影所見と肉眼的所見の乖離、対照群の浮腫改善の機序、臨床で行われているリンパ節移植術について質問があった。主査の清水教授から、現時点で考えられるリンパ節移植術を行う意義、郭清術の効果に関して研究する為の新たなマウスモデルの作製、リンパ浮腫状態での血管新生に関して質問があった。

申請者は自験例と過去の文献を引用し回答した。

この内容は、これまでに発表した国内の学会で高く評価され、リンパ節移植術による合併症としてのリンパ浮腫予防や悪性黒色腫の治療法開発に関する基礎および臨床研究に有用な新知見と発展性を付与するものと期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。